

実績概要 (ホームページ掲載用)

| | |
|--|------------------------------------|
| 研究又は活動のテーマ | 人口減少下における地域居住者主体のまちづくり・ひとづくりに関する研究 |
| 助成事業者 | 都城工業高等専門学校建築学科・杉本研究室 |
| 代表者 | 杉本弘文 |
| <p>(目的)</p> <p>本研究は宮崎県都城市庄内町を対象に、NPO法人、地区まちづくり協議会、都城高専の学生らが協同・協働して、地域資源を活かしたまちの再生・活性化に取組み、アクションリサーチを通じて『持続可能なまちづくり』に寄与する地域再生のプロセスを検証し、その具体的方法論についてソフトとハードの両側面より検討するものである。</p> | |
| <p>(概要)</p> <p>本事業期間は令和1年度～3年度であり、本年度が最終年度となる。本年度においては、これまでの研究成果を基盤としながら、『地方都市におけるシェア居住による戸建て空き家の活用に関する研究－宮崎県都城市における空間的ストック活用について－』（空き家再生事業）、『認定こども園との連携による保育運営及び地域運営に関する研究－子育て世代のコミュニティ形成とまちづくりの相関の考察－』（子どもの遊び環境整備による子育て世代との連携）、『地方都市における子育て世帯の近隣余暇活動に関する研究』（子育て世代の地域内における生活・余暇・コミュニティ活動特性の考察）の3つの研究テーマを軸に、ソフトとハードの両側面より調査・分析を行い、人口減少社会におけるまちづくり・ひとづくりの在り方と地域特性を生かした持続可能な取り組みの在り方について基礎的知見を得た。各テーマに共通して得られた知見と成果を以下に整理する。</p> <p>1) 参加と協同・協働による種々の活動を基盤として、地域居住者を巻き込みながら種々のプロジェクトを行うことで、まちづくりへの参加年齢層への変化が見られた。また、地域内でのつながりの連鎖による様々な波及効果（高専生による学習支援事業への展開、地区まちづくり協議会や地元企業との連携、DIYリノベーションによる地域拠点形成等）が得られた。2) 地域での様々なプロジェクトに学生が関わることで、若者への情報発信効果が得られると共に、様々なメディアにおいて取り上げられ、調査対象地域外での活動にも発展した。こうしたつながりは地域での交流人口・関係人口の増加にも大きく寄与した。3) まちづくりの情報発信にオンライン環境を活用することでまちづくりの参加層に変化がみられ、新たなまちづくりの可能性を見出せた。また、オンラインでの活動と地域内における身近な生活空間内での活動を組み合わせることで、イベントや地域活動の参加者が元々持っているコミュニティ間の繋がりを活かし、活動に広がり生まれた。4) 継続的に実施していくためのまちづくりの手法に関して、地域内におけるコミュニティの強靱化により、運営サポートに加わる地域居住者が増えた。これを組織化し、ネットワークを構築することで、地域居住者の知恵・技・芸と余暇時間を活かしたまちづくりの可能性を見出し、まちづくりの担い手の発掘と育成に寄与できた。</p> | |